

授業科目名	教育原理	教員名	河原 国男	免許・資格との関係	小学校教諭	必修
					幼稚園教諭	必修
授業形態	講義	担当形態	単独		保育士	必修
					こども音楽療育士	
科目番号	SEN102	配当年次	1年後期	卒業要件	小幼コース	必修
単位数	2単位				幼保コース	必修
科目	教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園及び小学校）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想					
一般目標	<p>(1)教育の基本的概念 教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。</p> <p>(2)教育に関する歴史 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。</p> <p>(3)教育に関する思想 教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。</p>					
到達目標	<p>(1)教育の基本的概念 1)教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。 2)子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。</p> <p>(2)教育に関する歴史 1)家族と社会による教育の歴史を理解している。 2)近代教育制度の成立と展開を理解している。 3)現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。</p> <p>(3)教育に関する思想 1)家庭や子供に関わる教育の思想を理解している。 2)学校や学習に関わる教育の思想を理解している。 3)代表的な教育家の思想を理解している。</p>					
授業の概要	教育の基本概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ変遷してきたかを理解する。それにより、教師としての実践的指導力に必要な、教育の基礎的理解を深める。アクティブラーニングとして、振り返りやレポート等を取り入れる。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業計画	<p>第1回：はじめに・人間形成に関する問いと教育 ～「教育」の基本概念～（目標(1)-1), 2))</p> <p>第2回：人間形成に関する問いと教育 ～アリストテレス習慣づけの所見と“生と形式”に関する基本問題～（目標(1)-1))</p> <p>第3回：人間形成に関する問いと教育 ～近代社会における「子ども期の発見」とルソー『エミール』の「自己活動」の原理～（目標(3)-1), 3))</p> <p>第4回：人間形成に関する問いと教育 ～コメニウス『大教授学』と職工型教育観～（目標(1)-1), (2)-2))</p> <p>第5回：「向上」の概念 ～正・負の垂直の座標軸と「試練」について（目標(3)-1), 2))</p> <p>第6回：「向上」の概念 ～「試練」にかかわる具体的事例～（目標(3)-1), 2))</p> <p>第7回：教育に関する思想 ～フーコー「規律訓練」論が描く支配関係～（目標(2)-1), 2), 3))</p> <p>第8回：教育に関する思想 ～伊藤仁齋『童子問』師説に見られる指導関係～（目標(2)-1), (3)-</p>					

	<p>2) 3))</p> <p>第9回:教育に関する思想 ～プラトン対話篇「メノン」に見られる同朋関係～(目標(2)-1), (3)-2) 3))</p> <p>第10回:教育に関する思想～「学び」の基本的様式について～(目標(1)-1), (3)-1))</p> <p>第11回:教育に関する歴史と学校の成り立ち ～「学制」(明治5,1872)～(目標(1)-2), (2)-1) 2))</p> <p>第12回:教育に関する歴史と学校の成り立ち ～現代の教育課題と義務教育学校・小中一貫連携教育について～(目標(1)-2), (2)-3))</p> <p>第13回:教育目的の公共性理念 ～自己を生き、社会と繋がる～(目標(1)-1), (2)-3))</p> <p>第14回:「いのち」の危機にどう向き合うか ～新しい人間の誕生～(目標(1)-1))</p> <p>第15回:「いのち」の危機にどう向き合うか ～自殺予防教育と「援助希求能力」～(目標(1)-1))</p> <p>期末試験</p>
学生に対する評価	<p>授業の展開の中で課すレポート30%・期末試験70%</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
時間外の学習について	事前・事後学習として週4時間以上行うこと。
テキスト	「教職基礎～「教職概論」「教育原理」～」
参考書・参考資料等	特になし
担当者からのメッセージ	特になし
オフィスアワー	授業の前後の時間(メール等でアポイントを取ること。)